8　芸術（書道）

学校番号	3020

令和２年度　芸術科（書道）

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	書Ⅰ（教育図書）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・前課程での書写を受け、芸術科書道では書の歴史や用具用材など更に深く探求します。
・漢字の様々な書体や仮名文字などの多くの古典を臨書・鑑賞し、自己の表現の幅を広げます。
・「書」を生活に取り入れ楽しめる作品を作り、それにより書への親しみを深めたいと思います。

2　学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、生徒が感性を豊かにし、書の伝統文化についての理解を深めるよう導く。また書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	丁寧に観察し、書のよさや美しさや書表現の多様さを感じ取り、感性を働かせながら、自身の表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。また、書の芸術性について考察している	書の歴史や文化を理解し、身の回りにある書に興味を待ち、書を味わう心を持っている。
主たる評価方法	観察 レポート ワークシート	観察 レポート ワークシート 提出作品	観察 レポート ワークシート 提出作品	観察 レポート ワークシート 提出作品

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

月	題材名	学習内容・活動	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4	書写と書道 (書体の変遷)	・国語科書写と芸術科書道 ・書体の変遷と様々な書体を知るとともに、それを表現する用具用材についても知る	○			○	a. 今後の学習の基本となる文字についてや用具用材に関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b. 国語科書写での基礎・基本を踏まえ表現を工夫している。 c. 姿勢や執筆法の基本を身につけ表現している。 d. 様々な書体について理解し、それを味わっている。	観察 レポート ワークシート 提出作品
5 6	楷書と行書	・臨書 (半紙・画仙紙)	○	○		○	a. 古典に基づく学習の意義と臨書に関心を持っている。 b. 古典の書の美と技法を学び、表現を工夫している。 c. 基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆の関係を理解し表現している。 d. 古典にも基づく学習の意義やその時代背景・美しさを理解している。	観察 レポート ワークシート 提出作品
7 8	漢字かな交じりの書	「うちわ」制作 ・言葉選び ・顔彩による彩色	○	○	○	○	a. 制作後実際に使用できる「うちわ」という素材に、創作意欲を持ち積極的に取り組もうとしている。 b. 用具用材や墨色によって、線質や表現の違いが生まれることを知り、表現を工夫している。 c. 表現に合う構成を工夫している。 d. 漢字と仮名の調和した表現について理解し、紙面全体の構成の工夫の大切さも理解している。	観察 ワークシート 提出作品
9	篆書	・自分の名前調べ (各書体) ・姓名印づくり (篆刻)	○	○	○		a. 自分の名前調べを通し漢字の書体に関心を待ち、自分の印を作る喜びを味わっている。 b. 方寸の世界のおもしろさを理解し、表現を工夫している。 c. 印刀による彫り味を生かしながら、趣のある印を制作する技法を身につけている。 d. 落款の意味とその役割を理解し、様々な印影を鑑賞し、美しさを味わっている。	観察 ワークシート 提出作品

10 11	一字書作品制作	・漢字一文字の作品創作(画仙紙) ・表具(パネル) ・相互鑑賞会	○	○	○	○	a.創作することに楽しみを待ち、それを作品として完成させるまでの過程を積極的に取り組もうとしている。 b.字形や全体構成・運筆の遅速・墨色などを工夫しいぇいる。 c.文字と余白の関係を理解し、自身の創作意図を適切に表現している。 d.相互鑑賞会で、生徒作品のそれぞれの美しさを味わい理解しようとしている。	
12 1	工芸的作品制作	「鏡」へのサンドブラスト	○	○	○		a.書を生活に生かす作品制作に関心を持ち、積極的に取り組もうとしている。 b.15cm 四方の鏡にサンドブラストする言葉を丁寧に考え、その構成を工夫している。 c.渇筆などの転写を工夫し、仕上がりに生き生きとした動きの表現をもたらしている。 d.仕上げの板への装飾も充分に考えられ、それがいかに「書作品」を引き立てるかを理解している。	
2	仮名基礎	仮名文字の鑑賞と表現	○	○	○		a.仮名文字への関心を示している。 b.仮名の基本線に慣れ、筆先に注意が届いている。 C. 仮名の基本的な筆使いを理解している。 d. 古筆の鑑賞と共に美術館への興味を深めている。	

※　表中の観点について　a:書への関心・意欲・態度　　b:書表現の構想と工夫
c:創造的な書表現の技能　　d:鑑賞の能力

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。